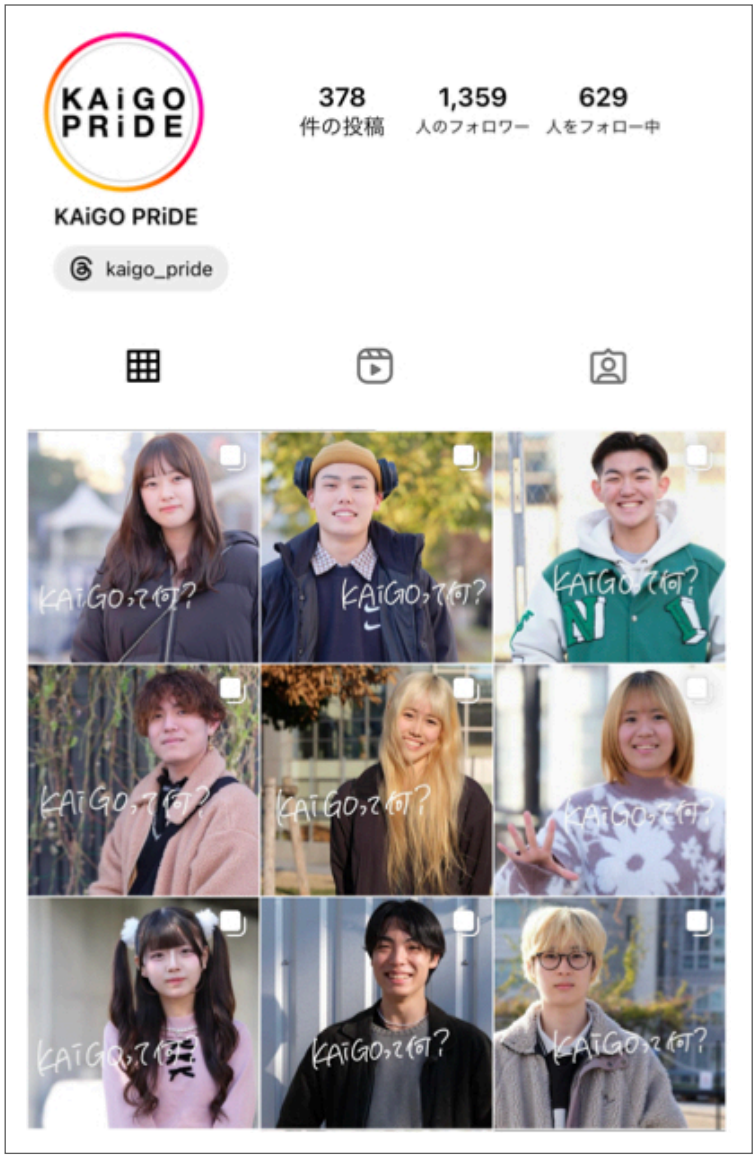
KAiGO PRiDE NEWS

KAiGO PRiDE情報発信メディア

Vol.34 2024年4月12日



新企画「KAiGOって何?」

一般社団法人KAiGO PRiDE（所在地：東京都渋谷区。代表理事：マンジョット・ベディ）は、新企画として「KAiGOって何?」をスタートさせました。この企画は一般のZ世代（1996-2012年に生まれた若い世代）をターゲットに介護について率直な意見をインタビューしていく企画です。

第一弾として9人の若者にインタビューをし、当法人のInstagramでの画像投稿と共に、noteにも詳しいインタビュー内容を掲載しています。福祉系の同世代の学生から介護についての意見は耳にする機会はあったものの、全く関わりのない若者から見た「介護」についての意見は新鮮で、実際我々が感じていることとはまた違う、新しい視点の意見となっております。noteに関しては、コンパクトな文字数で読みやすくなっておりますので、是非一度ご覧ください。

https://note.com/kaigo_pride

KAIGO_PRIDE

https://www.instagram.com/kaigo_pride/

KAiGO PRiDE NEWS

KAiGO PRiDE情報発信メディア

Vol.34 2024年4月12日

The New York Times 掲載記事

KAiGO GLOBAL WATCHING

世界のKAiGOトピックを紹介

今、欧米で話題の ケアフルエンサーとは？

このコーナーでは、世界各地の介護にまつわるトピックを紹介していきます。今回ご紹介するのは先週発行された「The New York Times」の記事。欧米でも介護職が不足している問題は日本と同一で、高齢者の孫が介護している現状も多い模様。そういった中でソーシャルメディアを使って、実際の介護をしている様子を発信している**「ケアフルエンサー」**というものが流行しているとの内容です。

近年のKAiGO PRiDEは「介護職が自ら、介護の魅力を発信する」ということに重きを置いて活動しております。昨年ではKAiGO PRiDEアンバサダーが介護の魅力を発信るす出前講座の運営や、KAiGO PRiDE部として福祉を勉強している学生がSNSで介護の魅力発信を行うバーチャル部活動等などを実地。学会でも取り扱われるほど好評を頂いています。一般的に高齢者の介護は家族が行うことが多い欧米では、発信者は異なれど、介護の魅力を伝えたい層は同一で、実際に介護に携わっている者がSNSを通して介護の発信をすることは今世界各地で大きな影響力を持っていることが分かります。そういった点でも「ケアフルエンサー」を特集してる同記事は、当法人としても非常に共感する点が多い内容でした。

ただ、立場の弱い高齢者をコンテンツにして拡散しているとも捉えられる活動に対して批判的な声もあり、同記事では問題として指摘されています。しかしその後には次のような見解が掲載されています。

But according to Professor Falzarano, the gerontologist, the benefits of caregivers' sharing their experiences outweigh the risks. "It's really contributing to the greater awareness and visibility of chronic illness in caregiving," she said.

引用元：「The New York Times」https://www.nytimes.com/2024/04/03/style/carefluencer-social-media.html

（しかし、老年学者のファルザラノ教授によれば、介護者が自分の経験を共有するメリットはリスクを上回ります。「これは、介護における慢性疾患に対する認識と可視性の向上に大きく貢献しています」と彼女は言いました。）**直訳**

このように実際の研究結果としても、メリットの方が多いと推奨されているケアフルエンサーの動きを今後とも注目していくことが重要です。